一般質問

6月定例会

早樋 徹雄 議員

Q iまるシェの今後は

iまるシェは、平成25年10月30日に三次市でオープンし、最低売上目標は6000万円の計画であった。

指定管理者の有限責任組合飯南パートナーズの運営で、施設全体の総売上高は平成26年度3140万円、平成27年度3100万円、平成28年度は2400万円となっている。現在は売上げ目標の4割と、目標にはほど遠い状況である。

売上が伸びないことから、飯南パートナーズの営業収益は500万円前後で推移しており、厳しい経営状況になっている。

指定管理など施設運営にかかる町の支出は、平成27年度決算では管理料660万円、集出荷補助金300万円など、施設の電気料200万円など、合計で1千万円を超える負担となっており、この状況は続くと思われる。

撤退も含めた抜本的な対策が急がれると思うが、町長はどう考えるか。

三次市にあるiまるシェ

A 整理し努力を続ける

町長 山碕 英樹

この施設は、第1次総合振興計画の後期に掲げ、広島市へアンテナショップを設置検討していたが、適当な物件が無いなどにより計画が進まなかった。

ショッピングセンター「ゆめマート」の新規店舗設置にあわせ、本町も出店し運営をしている。

運営の状況については、冬の時期に野菜を始めとした商品が並ばないことなどから、来店者も減少して、この状況が続いている。

議員から、撤退も含めた抜本的な対策が急がれるとのご指摘だが、私としても深く受け止める。この状況であれば、撤退についても、時期を見誤ることなく決断することは大変大切なことと思っている。

本施設は過疎債を使っており、今の時期、廃止して繰上げ償還を行うことは得策ではないと考える。これまでの取り組みを踏まえ、もう少し整理し、努力を続けたい。

売り場スペースには商品がないことも

一般質問

6月定例会

高橋 英次議員

Q 閉鎖施設の管理者は

「憩いの郷きぬかけ」北側に隣接し、今は閉鎖されている商業施設があるが、この建物の現在の管理者は誰か。

A 現在は存在しない

町長 山碕 英樹

以前の管理者は「協同組合大田ショッピングセンター」であったが、平成23年に松江地方裁判所に自己破産し、実態のない法人となっている。

破産手続きは平成24年に終了し、管理者が存在しない状況である。

Q 危険度の認識はあるか

国道側からは確認できないが、東側から見ると、この看板部材の一部破損や壁材の剥落、建物入口階段のタイルの散乱など、大変危険な状況であると思う。

町として、建物の危険度はどのように認識しているか。

A 安全な建物ではない

町長 山碕 英樹

建物上部の看板の一部破損は、国道側からしか見ておらず承知していなかった。町内に目を配る立場から大変申し訳ない。

看板や壁面の破損、タイルの剥落など危険性はあると思う。

町として調査を行ったものではないが、安全な建物ではないという認識はある。

Q 利用度高い地点との認識を

建物周辺には多くの観光施設があり、多くの来客に楽しんでいただいている。特に5月のぼたん祭り、7月の半夏祭りには大変多くの方々が来られている。

また、建物の横には新しく生活路線バスの停留所が整備され、雨や風、雪などをしのぐことが出来るようになり、乗降者の皆さんには安心して利用していただいている。

これらの現状を踏まえ、町としてどのように認識しているのか再度問う。

町の一等地にある旧さんのあ

A 小さな拠点作りと平行して

町長 山碕 英樹

指摘のとおり、このエリアは赤名地区の中心地である。観光面や生活のよりどころ、拠点として大切なゾーンであり、飯南町の顔となるエリアだと思っている。

この建物が有休施設になっていることに憂慮している。危険性を含め調べたいが難しい。

現在、各地区の「小さな拠点」づくりをすすめている、そのなかで、新たな施設にするか、今ある施設をどうするのかを含め検討したい。

旧さんのあに隣接したバス停